

JA 全農 ET センターニュース平成 21 年 8 月号

JA 全農長野県本部 ET センターでは経産牛の受胎率向上を目指してミサワ医科工業㈱と共同で新しい移植器を開発しました。

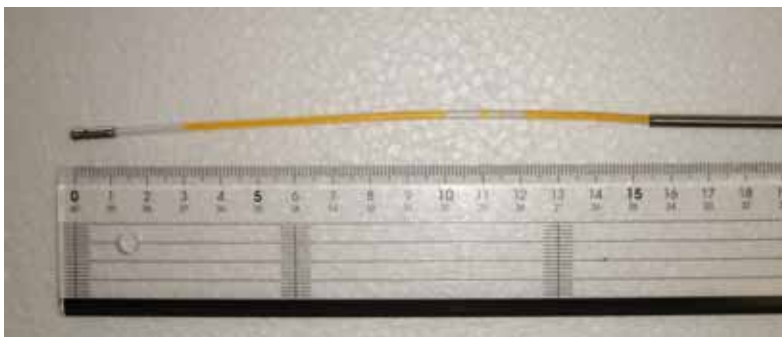
本移植器の大きな特徴は移植器の先端部分が本体から約 15cm 伸びることです（下写真）。伸張する部分は樹脂チューブで出来ていることから柔軟性に優れており、子宮深部まで受精卵を持っていくことが可能となります。無理な移植は直腸検査による過度な子宮への刺激や、移植器により直接子宮内膜を傷つけて炎症を起こすことにより Prostaglandin $F_2\alpha$ ($PGF_2\alpha$) の産生を誘発すると考えられています。

モ - 4 号を使った移植までの手順は 移植器の入った袋の中で移植器先端の樹脂チューブを伸ばして準備をする。 受精卵の入ったストローを融解する。 ストロー先端のシール部分と綿栓中央のパウダー部分をカットする。 ストロー先端を移植器後方の注入部に差込む。 押出し棒を使って綿栓を押して受精卵の入ったストロー内溶液を移植器に押出す。

移植器を水平に保ったままストローを抜き取り、押出し液の入った注射器を移植器後方に装着する。 受精卵が出ないように注意しながら注射器の内筒を押して樹脂チューブの先端まで液を進める。 移植器の内筒を所定の位置に戻し、その後移植操作を行なう。 移植器の先端が黄体側の子宮角に達した所で移植器の内筒を押して樹脂チューブを伸ばす。

注射器中の押出し液を押して受精卵を子宮内に置いて移植操作を完了する。

モ - 4 号は移植器 1 本あたり約 1,000 円（詳しくはお近くの販売代理店様にご確認下さい）程度であり個別包装の使い捨てとなっていることから、洗浄や滅菌といった手間が無く衛生的に移植を行なうことができます。ET センターでは当センターの受精卵をお使いいただいているユーザーの皆様に関り、より理解していただくために受精卵の移植器へのセット方法のマニュアルおよび上記の無菌的な押出し液を準備しております。お気軽にお問合せ下さい。



移植器先端の樹脂チューブを伸ばして受精卵の入った液をセットした状態。受精卵は 2 番目のカラム(先端から 12cm より後方)に入っています。液は分かりやすくするために色をつけてあります。